
HIV/AIDSに関わるユースの意見交換会

- 【日時】 2006年5月22日 18:35~20:10
【場所】 国立オリンピック記念青少年総合センター
【参加者】 26人(くらい)
【記録】 稲垣(+根本、安井)
-

【この会の背景について】

HIV/AIDSはグローバルな課題でもあり、ローカルな活動が必要とされている分野でもある。このたび、UNGASS+5やそれに先立つユースサミットが開かれ、日本のユースも参加することになった。HIV/AIDSに関わるユースの間で相互を知り合い、普段の活動を振り返るとともに、国際的な動向にも目を向けたい。

【スケジュール】

- 趣旨説明・自己紹介
- UNGASS+5などについて(根本さんから)
- 班に分かれて「やりたいこと」を議論

【参加者～所属団体だけ記載】

HAATAS、IFMSA、横浜エイズ勉強会、早稲田大学公認イベント企画サークル qoon、医療系学生による国際協力隊 euphoria、IFMSA-Japan、NPO カタリバ、慶應義塾大学国際協力研究会 PEACE、PLAS、アデオジャパン、Rainbow Ring、YDP Japan Network 事務局、(結核研究所)
※順不同

【UNGASS+5などについて】

■そもそもUNGASSってなあに??

2000年に採択されたMDGs(国連ミレニアム開発目標) 目標6

- ・ 新規HIV感染率が0になり、陽性者の数が減少する。
- ・ 15-24歳までの妊婦陽性率が減少する。
- ・ エイズ遺児の就学割合が、そうでない子どもの就学割合に比べ、低くならない(?ちょっと曖昧)

(参照：<http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/index.html>)

2001年 国連エイズ特別総会において、コミットメント宣言の採択

MDGs 目標6を達成するために

2003年、2005年、2010年という制限付きの具体的な目標をたてた

2005年 UNGASS+5(レビューミーティング)

その2日前にユースサミットが開催される。

→5年たった今各国で何ができ、何ができていないのか、そしてそのために何を達成していけばよいかを討議するための会議

■根本君がなんでここにいるのか?

これまでの政府代表団は感染者+MSM(men who have sex with men)が市民社会側から選出されていた。

今年は、(予防指針等の改正もあったせいか) 外務省国連代表部に GYCA を通じて、働きかけた結果、ユースが代表団に入ることができた

■ どうやって根本君と決まったのか？

GYCAの National Focal Point として、GYCA から連絡があり

今回のユースレポートを作成するきっかけにいたった。

関西のユースを巻き込みながら、報告書の作成をした。

根本君が、自分が行きたいということを意思表示し、

一緒にレポートを作った関西のメンバーからリクエストをもらって

今回は根本君が行く、ということになった。

■ 根本君的に今回のレポートにかけていると思われる点

・感染者の視点が圧倒的に欠けている点(ユースの感染者が少ない、公に出て活動しづらい。)

・日本のユースの活動は、予防啓発中心になっている点

自分たちは、ピアエドゥケーターと言っているが

感染者や、身体障害者の人に対してピアエドゥケーションできるのか

■ 質疑応答

小栗

・レポートに書いてある内容と自分たちのやっていることに若干のずれ、違和感を覚える人が存在するかもしれない。

good practices などのように、自分たちは、こういうことはできています、

といった内容をもう少し入れたほうがいいのではないか。何ができていないかもはっきりしてくる。

例えば、政府機関・地方行政との連携、ユースの連携などについてもっと積極的に載せていくべき事例が存在するのでは？

・今後ユースがどんなことをしていきたいのか、ということをもう少しアピールするとよいのではないか。

【班に分かれて「やりたいこと」を議論】

ユース間での連携をはかるためのイベント(2006年)：

8月 横浜エイズ文化フォーラム

11月～12月 日本エイズ学会

12月 ワールドエイズデー

<手順>

ランダムに4つのグループに分かれる。

まず、個人で「やりたいこと」を挙げる→グループでシェアし、5つに絞る

最後に、全体でまとめ、討議(このとき、ユース全体←→個別の団体、戦略←→個別のプロジェクトというマトリクス(4象限での分類)を利用)

<以下、各グループから出された「やりたいこと」を列記しました>

政府に対するアドボカシー

ユースを利用したネットワーク

マスコミの利用

情報共有・ノウハウの共有

ユース活動の一覧づくり

性教育・意志へのインタビューを身近に

感染者の方が、公に出られる環境作り

年齢に応じた性教育

自分の経験を話す 身近な話 自分でも友達から聞いた話でも

医療者の正しい知識 医学生・医師・助産師さん・看護師さんへの教育

継続的な連携 マンパワーによってしまう

それぞれの団体が得意なことを生かす

政治家と朝ごはん アドボカシーの一貫として、政治家と朝ごはん

年齢に応じた性教育

お金がほしい

全般的な知識のインプット

国際的な情報共有

ユースとしての強みの認識

リアリティをもった予防啓発事業

予防とケアがつながった事業

エイズ啓発CDとタイアップ

・マンパワーを補足、情報共有、をするためのユースのネットワーキング

・ユースの日本政府に対するアドボカシー

日本政府の他国に対するアドボカシー

→お金をほしい、国際的な情報共有はつながっていく

・エイズ予防指針などに対してのアドボカシーはやっていくべき

自分たちが困っていることに対するアドボカシーの重要性

<まとめ>

多くの方に来ていただけ、よかった。ユースレポートについては十分話せなかったが、二次会の交流会も含めての企画なのでぜひ参加して、話をしてほしい。ユースのネットワーキングなど、特にやりたいとされたことの実現は難しいが、ぜひやっていたらいいのではないか。(安井・江島)

<以上>

☆